

AOSSA 子ども家庭センター・子育て支援室・相談室 (平成26年度)

子ども家庭センター・子育て支援室・相談室 副室長 青井 利哉

アオッサの子ども家庭センター（以下、センター）は、児童福祉法第6条の2に準拠した地域子育て支援拠点事業を行うとともに、子ども相談等を行う相談室が併設されているセンターになります。子育て支援機能と相談機能が一体として大学機関に委託され、さらに行政との協働で深刻化する児童虐待対応を行うところは、全国を見渡してありません。センターは今年度で8年目を終えようとしています。当初センターに求められていた役割は、ここ数年で変化しており、たとえば、地域支援活動の充実です。これは地域の子育て親子へ、可能な限り支援が行き届くように、積極的に地域に出向く活動のことです。具体的には、①福井市中心部空き施設で子育て支援室の簡易版を再現し、子育て親子、子育て支援ボランティア、学生たちによる世代間交流を促進すること、②公立保育所へ訪問し、要支援家庭への援助方法を考えることです。

今回の報告は、センターの基本事業報告とともに、上記2点に関しても報告します。

1. 平成26年度子育て支援室の実績

1) 子育て支援室利用数、子育て講座開催状況の推移

表1は、平成24年度から平成26年度（3月12日まで）の子育て支援室の利用数の推移です。総延べ利用数は、子どもの利用延べ人数と、その保護者の利用延べ人数を合算したものです。表2は、子育て支援室におけるすべての子育て講座関連の開催数と延べ参加人数を表した表で

す。子育て講座の内容は、子どもの発育に関するもの、トイレトレーニング、睡眠などの基本的生活習慣に関するもの、ベビーマッサージ、離乳食づくりなど、親子ふれあいに関するものなど、様々な内容で講座を開催しました。

表1. 子育て支援室の利用者数

	世帯数(世帯)	子どもの延べ利用数(人)	総延べ利用数(人)
H24年度	1,507	9,237	17,641
H25年度	1,456	9,708	18,558
H26年度	1,435	8,738	16,704

表2. 子育て講座の開催状況

	開催回数(回)	延べ参加人数(人)
H24年度	47	1,772
H25年度	71	3,084
H26年度	76	3,262

2) 子育て講座への参加率

表3は、子育て支援室の年間利用回数と、子育て講座参加率を集計したものです。集計に用いた利用者の実数は、1,962人です。子育て講座は外部講師に依頼したもののみを対象として、講座参加率を集計しました。結果的に、子育て講座への参加率は、子育て支援室の利用回数にかかわらず、ほとんど参加しない傾向があることが分かりました。この結果をもとに、講座の広報の仕方に課題がないか、内容に偏りがいないか等を再度見直し、講座の企画を行っていく予定です。

表3. 子育て支援室年間利用回数と外部講師講座参加頻度の集計表

		外部講師講座参加頻度						合計
		すべて参加	よく参加	半分は参加	あまり参加しない	ほとんど参加しない	一度も参加しない	
子育て支援室 年間利用回数	5回以下(人) 割合(%)	57 3.8	1 0.1	55 3.7	29 1.9	13 0.9	1345 89.7	1500 100.0
	6~10回以下(人) 割合(%)	0 0.0	3 1.2	7 2.8	11 4.4	96 38.2	134 53.4	251 100.0
	11~50回以下(人) 割合(%)	0 0.0	0 0.0	2 1.0	5 2.6	56 28.9	131 67.5	194 100.0
	51回以上(人) 割合(%)	0 0.0	0 0.0	0 0.0	0 0.0	9 52.9	8 47.1	17 100.0
	合計(人)	57	4	64	45	174	1618	1962

表4. 相談室の相談実績件数

単位(件)

	子ども相談	女性相談	ママダイヤル	小 計	専門相談計	(小児科)	(弁護士)	総合計
H24年度	997	1,040	786	2,823	197	(129)	(68)	3,020
H25年度	813	610	611	2,034	187	(115)	(72)	2,221
H26年度	662	623	670	1,955	197	(131)	(66)	2,152

2. 平成26年度相談室の実績

1) 相談室利用実績

表4は、平成24年度から平成26年度(3月12日まで)の相談室利用実績の推移です。利用実績数はすべて延べ件数で表しています。表中のカッコ内は、専門相談合計における内訳を示してあります。

2) 公立保育所出張訪問相談の実績

相談室では、日頃の保育や支援によっても改善等が認められず、対応に苦慮している事例(家庭支援ケース)について、保育者へ助言することを目的として、試行的に公立保育所へ出張相談を行っています。今年度は、福井市子ども福祉課と子育て支援室の協力を得ながら、5か園、7事例に対応しました。対応事例の多くが、養育者の精神状態の不安定さに関連して、子どもの行動上の問題

にあらわれていました。福井市から次年度も継続の必要性が認められ、地域の保育所へ相談室の専門性を提供していくこととなりました。

3. 地域支援活動

今年度は、仁愛女子短期大学地域活動実践センター、福井市と協働して、学生によるオレンジリボン活動(児童虐待防止啓発運動)を開催するとともに、福井市の街中にある「ふく+」という場所で、子育て支援室の再現を行いました。学生には、オレンジリボン運動の勉強会のため、公立保育所統括園長、福井市役所職員による講義を事前に行いました。そこで学んだ内容を、ポスターにまとめ、子育て親子の目に留まるように「ふく+」内に掲示しました。

事前学修(講師:公立保育所統括園長、福井市役所職員)


学生、福井市によるオレンジリボン運動
(福井市中心市街地 西武前にて)

子育て親子、学生、地域の人 世代間交流
(福井市中心市街地 「ふく+」にて)